

景気は後退、消費税増税を控え見通し悪化

鈴鹿商工会議所
中小企業相談所

(総括)

鈴鹿商工会議所では、鈴鹿地域の企業の業況と今後の見通し、問題点等を把握するため、会員企業を対象に毎年1月と7月に景気動向調査を行っている。このたび2019年上期(1月～6月期)の調査結果がまとまった。

全体の景気動向として、前回調査(2018年7月～12月期)と比較すると、景気の現状と今後の見通しはどちらも悪化し、先行きは厳しい状況が見込まれる結果となった。

全体DI値において、前期調査時に比べ、現状DI値は5.3ポイント、見通しDI値も14.8ポイントの悪化となった。業種別のDI値を見ると、建設業、サービス業を除くすべての業種で悪化した。

今期調査では、業況の判断理由として、「売上は増加したが仕入価格も高くなった」(飲食業)、「来客数の減少」(小売業)、「受注が取れていない」(製造業)などの声が寄せられ、仕入価格の高騰や売上・受注の停滞減少による影響からDI値は前回よりも悪化したものと思われる。

見通しについては、「消費税の引上げがあるため、買い控えが予想できる」(サービス業)、「近い将来ですら不安」(小売業)、「売上減少」(製造業)などの声が寄せられ、見通しDI値も前回調査と比べ悪化するなど企業の景気見通しは厳しく、今後の見通しは悪化するものと推察される。

(対象 1,100 社 回答企業 381 社、 回答率 34.6%)

DI値(ディフュージョン・インデックス)

DIとは、景気動向を示す指標で、調査時点における企業家の経済行動(強気や弱気など)を知るためのものであり、景気動向を客観的に判断する資料として幅広く使用されているもので、特に言及がない限り、「増加」「好転」したとする企業から、「減少」「悪化」したとする企業割合を差引いた値である。

●現状の景気について (図-1・3 参照)

「良い」「やや良い」は21.2%(前回23.0%:前年同期19.7%)、「やや悪い」「悪い」は35.7%(前回32.2%:前年同期35.5%)となった。

景気動向を示すDI値は、△14.5(前回△9.2:前年同期△15.8)と前回より5.3ポイント悪化し、前年同期より1.3ポイント改善となった。

業種別では、製造業DI値△21.6(前回△15.5:前年同期△17.7)、卸売業DI値△27.8(前回25.0:前年同期△26.7)、小売業DI値△52.1(前回△41.5:前年同期△47.8)、建設業は7.4(前回1.8:前年同期△4.1)、飲食業DI値△12.5(前回0.0:前年同期△21.8)、サービス業DI値△7.5(前回△8.7:前年同期△7.7)となった。

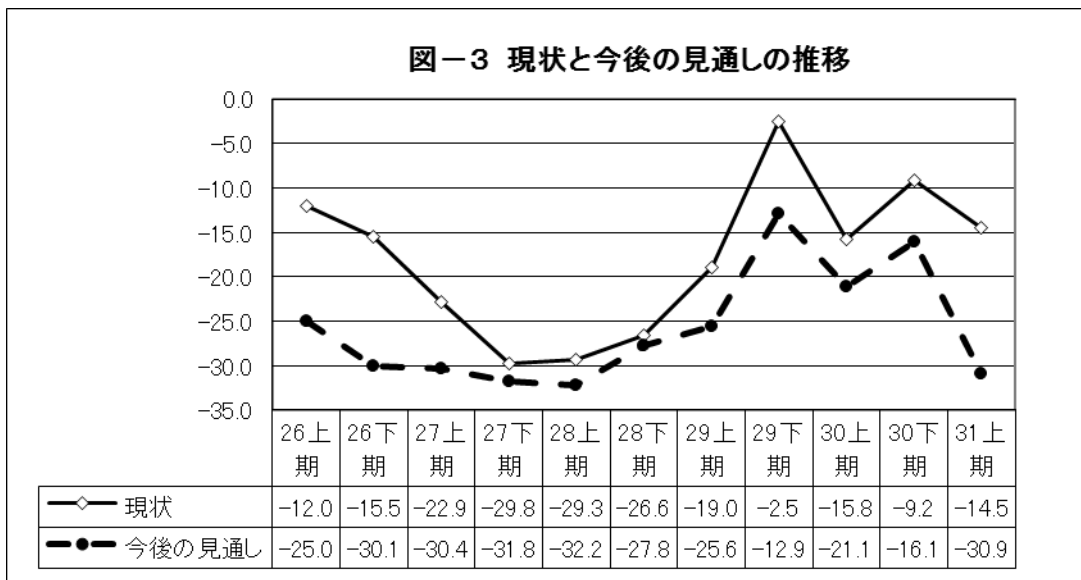
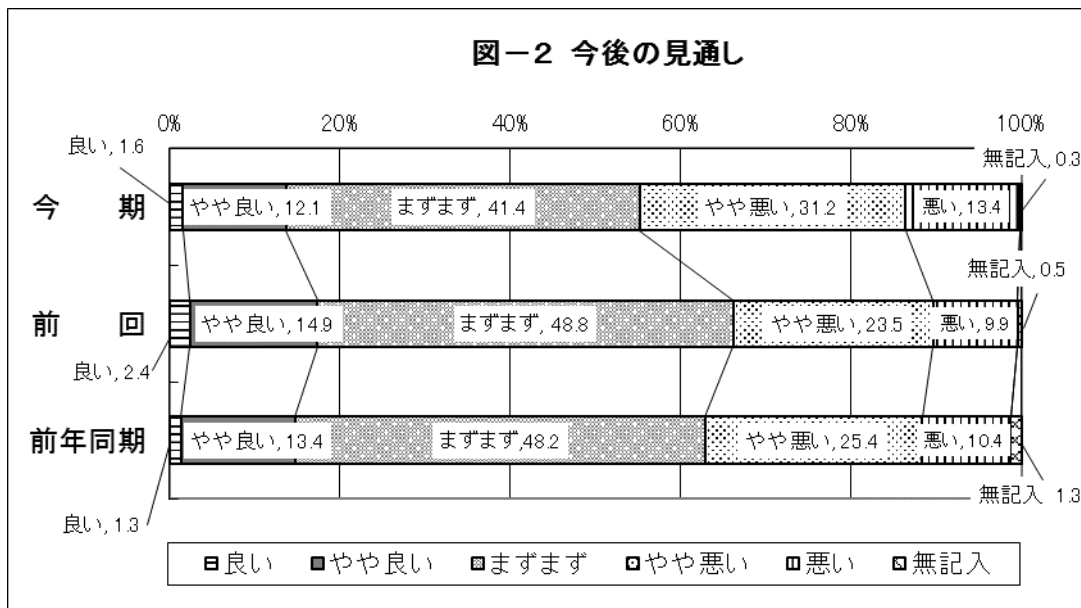
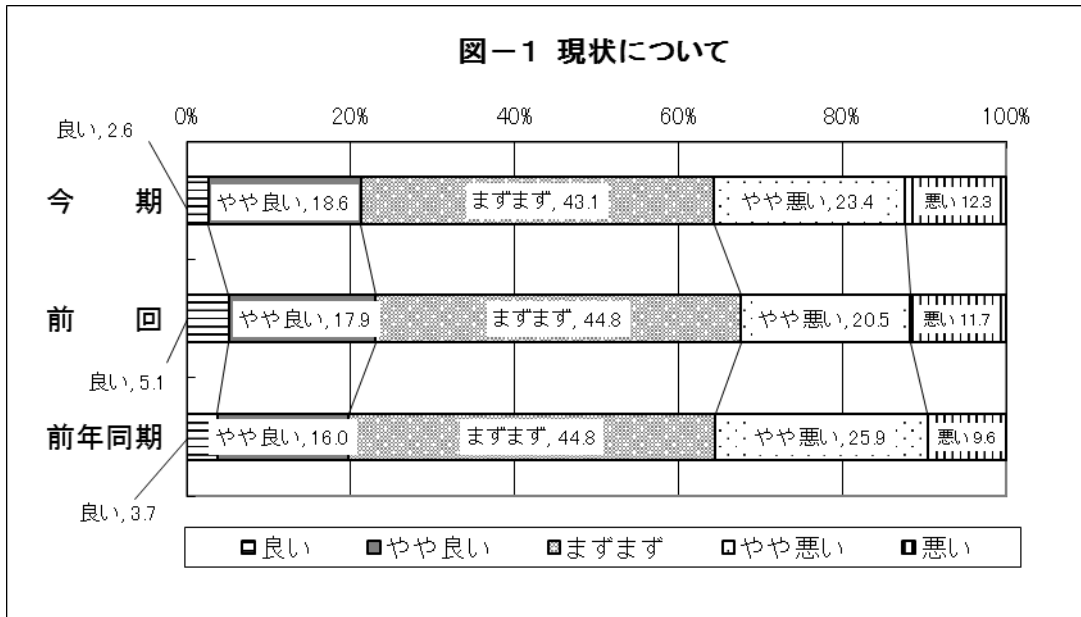
●今後の景気見通しについて (図-2・3 参照)

「良い」「やや良い」は13.7%(前回17.3%:前年同期14.7%)、「やや悪い」「悪い」は44.6%(前回33.4%:前年同期35.8%)となった。

DI値は、△30.9(前回△16.1:前年同期△21.1)と前回より14.8ポイント、前年同期より9.8ポイントの悪化となった。

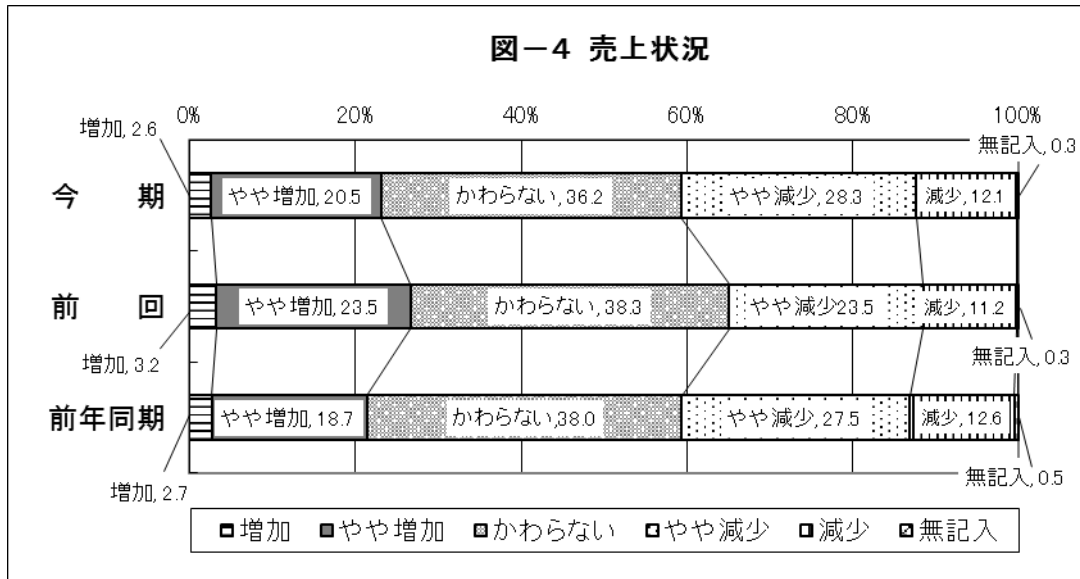
業種別では、製造業DI値△32.0(前回△17.4:前年同期△15.7)、卸売業DI値△

33.3（前回△50.0：前年同期△15.7）、小売業 DI 値△58.3（前回△48.8：前年同期△54.4）、建設業 DI 値△16.6（前回 0.0：前年同期△15.6）、飲食業 DI 値△37.5（前回△33.4：前年同期△13.0）、サービス業 DI 値△28.3（前回△21.1：前年同期△23.1）となった。



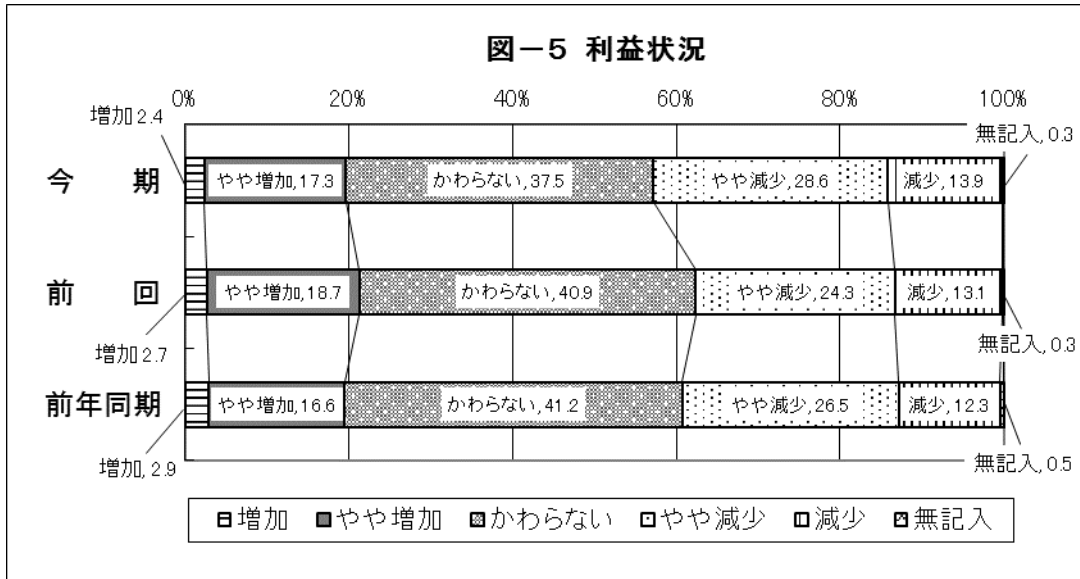
●売上状況について (図-4 参照)

「増加」「やや増加」は 23.1% (前回 26.7 : 前年同期 21.4%)、「やや減少」「減少」は 40.4% (前回 34.7% : 前年同期 40.1%) となった。DI 値は△17.3 (前回△8.0 : 前年同期△18.7) と前回より 9.3 ポイント悪化し、前年同期より 1.4 ポイント改善している。



●利益状況について (図-5 参照)

「増加」「やや増加」は 19.7% (前回 21.4% : 前年同期 19.5%)、「やや減少」「減少」は 42.5% (前回 37.4% : 前年同期 38.8%) となった。DI 値は△22.8 (前回△16.0 : 前年同期△19.3) と前回より 6.8 ポイント、前年同期より 3.5 ポイント悪化している。



経営上の問題点(上位3位)

(%)

		第1位	第2位	第3位
業 種 別	製造業	売上・受注の停滞減少 (43.4)	人材育成 (31.1)	人手不足 (26.4)
	卸売業	売上・受注の停滞減少 (50.0)	競争の激化 (38.9)	人手不足 (27.8)
	小売業	売上・受注の停滞減少 (64.6)	競争の激化 (31.3)	設備店舗の狭小老朽化 (20.8)
	建設業	人手不足 (66.9)	人材育成 (36.4)	売上・受注の停滞減少 (29.8)
	飲食業	原材料高及び不足 (56.3)	人手不足 (25.0)	人件費の増加 売上・受注の停滞減少 (18.8)
	サービス業	人材育成 (30.2)	競争の激化 (28.3)	設備店舗の狭小老朽化 (26.4)
	交通運輸業	人手不足,人材育成 人件費以外の経費増加 (42.9)	売上・受注の停滞減少 財務・経理問題 (28.6)	設備店舗の狭小老朽化 競争激化 原材料高及び不足,法的規制等 (14.3)
	その他	人件費の増加 人材育成 (50.0)	設備店舗の狭小老朽化 売上・受注の停滞減少,人手不足 (25.0)	法的規制等 (16.7)
総合		売上・受注の停滞減少 (37.3)	人手不足 (35.7)	人材育成 (29.1)
前年同期		人手不足 (43.0)	売上・受注の停滞減少 (38.0)	人材育成 (23.5)

地場産業—自動車関連

●現状の業況と今後の業況見通しについて

a) 現状の業況について

「良い」「やや良い」は 25.0% (前回 28.3% : 前年同期 20.6%)、「やや悪い」「悪い」は 41.7% (前回 35.9% : 前年同期 50.0%) となった。DI 値は $\Delta 16.7$ (前回 $\Delta 7.6$: 前年同期 $\Delta 29.4$) と前回より 9.1 ポイント悪化し、前年同期より 12.7 ポイント改善している。

b) 今後の業況見通しについて

「良い」「やや良い」は 20.9% (前回 22.6% : 前年同期 17.6%)、「やや悪い」「悪い」は 39.6% (前回 34.0% : 前年同期 44.1%) となった。DI 値は $\Delta 18.7$ (前回 $\Delta 11.4$: 前年同期 $\Delta 26.5$) と前回より 7.3 ポイント悪化し、前年同期より 7.8 ポイント改善している。

●売上状況と今後の見通しについて

a) 売上状況について

「増加」「やや増加」27.1% (前回 34.0% : 前年同期 29.4%)、「やや減少」「減少」は 37.5% (前回 32.1% : 前年同期 47.0%) となった。DI 値は $\Delta 10.4$ (前回 1.9 : 前年同期 $\Delta 17.6$) と前回より 12.3 ポイント悪化し、前年同期より 7.2 ポイント改善している。

b) 売上の見通しについて

「増加」「やや増加」は 23.0% (前回 20.8% : 前年同期 26.5%)、「やや減少」「減少」は 41.7% (前回 26.4% : 前年同期 35.2%) となった。DI 値は $\Delta 18.7$ (前回 $\Delta 5.6$: 前年同期 $\Delta 8.7$) と前回と比べ、13.1 ポイント、前年同期より 10.0 ポイント悪化している。

●利益状況について

「増加」「やや増加」は 29.2% (前回 22.7% : 前年同期 23.5%)、「やや減少」「減少」は 45.9% (前回 41.5% : 前年同期 41.2%) となった。DI 値は $\Delta 16.7$ (前回 $\Delta 18.8$: 前年同期 $\Delta 17.7$) と前回より 2.1 ポイント改善し、前年同期より 1.0 ポイント改善している。

■お問い合わせ

鈴鹿商工会議所中小企業相談所

TEL : 059-382-3222

FAX : 059-383-7667